



## 特集 ふるさと団地再生への挑戦

子育て世代が巣立ち、子どもや若者たちがいなくなったまち。空き家や空き店舗が増え、まちのどこを見ても高齢者ばかり…。

大型団地の開発で人口が急増した川西が、近い将来抱える課題の一つです。かつてのニュータウンがオールタウン化しつつある今、「ふるさと団地の再生」として、取り組み方法を検討しています。そして、それは何も団地だけの課題ではありません。少子化と高齢化が進み、人口が減少してくる中、旧市街地でも事情は同じです。

もし川西がそうなったとき、どんなことが起こるのか。そうならないためにどんなことが必要なのか。大和地区を例に取りながら、ふるさと団地の再生に取り組んできた大阪大学大学院准教授の松村暢彦<sup>のぶひこ</sup>さんや、昭和60年から大和地区に住む主任児童委員の中江真理さんと一緒に考えました。詳しくは政策課 ☎ (740) 1120 へ。

# もし街から

# 若者が

# 消えたら

「空き家が増えて心配なのは、不審者が潜んでいないか、たばこのポイ捨てなどで不審火が出ないかといった防犯や防災上の事がありますよね。それに景観の問題も。」

景観については、海外では自分たちのまちの価値を維持するために、ルールを守らなければ退去させるなど非常に厳しく対応する街もあるんですよ」と話すのは大阪大学大学院准教授の松村さん。

「増やせばいい」ではなくて  
人と人との絆も育てなければ

「若者が減って、空き家が増えていくことは問題ですが、ただ若者を増やせばいい

というものでもないんです。例えば、手ごるな価格で、きれいなマンションを造ったとしたら、若い人たちも一時的には増えるでしょう。けど、それだけでは、周りの人たちとの接点もなく、少し経ったらすぐに市外に出てしまっますよ」と続けます。

防犯、防災上の問題や景観上の問題は負の連鎖を繰り返して、どんどんまちのブランド力を落としていくとか。その悪い流れを断ち切るための方策は「血縁」「地縁」「志

縁」といった、人と人との絆だと松村さんは話します。

「血縁」は家族などのつながりで、親世代の近くに住む「近居」と孫を育てる『育孫』が注目されています。一方、地域のつながりである『地縁』なんです。大和地区の取り組みはいいですよ。子どもを地域に引き出してくるような取り組みが活発にされています。高齢者と子ども、若者と子どもと一緒に活動することで、地域の絆がはぐくまれていく。例えば美化活動

をしながら、地域への愛着がわいて、例に挙げた若者のようなことを防ぐことができるかもしれません。」

最後の「志縁」は趣味の活動などを通じて人のつながり。いずれにしても、人と人とのネットワークを作ることがまずは大切なようです。



心配その1  
つながい

## 防犯・防災上の不安 縁を大切に



ふるさと団地再生への熱い思いを語る松村さん



心配その2  
不便かも

近くにお店がなくなつた  
車に乗るのはもう危ないし……



団地内にあつた3軒のコンビニ……。もうなくなりました。商店の数も減ってきました。

「厳しいようですが、住民が利用しないなら、お店が撤退していくのは当たり前ですよ」と松村さん。

「僕は、近くのお店を利用するかどうかは、選挙と同じように将来を決める一票を投じることなんだって思います。公共交通機関だって同じです。今、楽だからといって車でしか外出しないということは、将来、

川西って坂や階段が多いけど



買い物は大切な  
コミュニケーションのひとつ

最近になって、電化製品を近くの電気屋さんで買うケースが増えてきているそうです。

「少しくらい高くても、後のサービスを考えて、近所の電気屋さんの方が気軽に頼めるからです。そのやりとりの中で、地域のコミュニケーションも生まれますし」。

さらに松村さんは「事業者が協同購入とあって、注文を受けて、地域の決められた場所へ配送し、近所の人たちが集まってくる販売方法をとっていましたが、最近では各家庭で届ける戸配の利用が増えてきているみたいです」と話します。

年を取って、宅配の集合場所に行くことも大変になって、誰かに家まで届けてもらうのが悪いのでという思いやりからの理由もあるようです。

「事業者も利用者も、相手への思いやりの気持ちから。でも、その気持ちが人と人のつながりを崩壊させていくことが残念です。遠慮せずに近所の顔見知りに向けてもらって、話をすることで、縁が深まりますし、高齢者の見守りにもなります」。

ふるさと団地の再生のためには、ここでも、地域の人と人のつながりを、今から大切にすることが必要なようです。

期待  
頑張る

活発な地域活動支える  
アクティブシニア

若者が減って、高齢者が多くなれば、地域活動もどんどん衰退してくると思うのが普通ですが……。いえいえ、川西の住民はパワフルです。

シニア層の積極的な地域活動への参加が、まちの賑わいを支えています。「アクティブシニア」という言葉がぴったり。

「確かに地域活動の担い手は高齢化していますよ。でも、皆さんお元気だし、地域を良くしているという気持ちを持っていく人が多いからでしょね」と大和地区で

主任児童委員をされている中江眞理さん。この地に昭和60年から住んでいます。

夏の盆踊り大会などのときには、ちょうど地区外に転出した人たちが、子どもたちを連れて帰ってくる時期と重なり、まさに活気があふれます。

「毎年、盆踊りの当日には、地域にこんなに若い人や子どもがいたかなあって驚かされます」と中江さん。「こんなアクティブシニアの活動は、地域の活性化のための大きな強みです。でも、この活動を次の世

心ふれあうまちだからこそ



大和地区主任児童委員の中江眞理さん



地域で毎年開かれる夏の盆踊り大会や「大和夢ナリ工」。川西を出て他市で生活している子育て世代の人たちとその子どもたちが戻り、にぎやかな楽しいひとときを過ごします。

代にうまくつないでいくことが今後の課題でしょうね」と話してくれます。

若者が戻ろうと思うには  
子育ての環境を整えて

「今から20年ほど前、長男が小学生だったころは、家の窓から顔を出したら、必ず遊び回っている子どもを見ましたけど、5歳下の長女の時には、子どもの声が聞こえなくなっていました。子ども会の活動でも、ソフトボールの大会をやったら、上の子の時は、地区のブロックごとに予選をして、大和地区の代表を決めて市の大会へ出ましたけど、下の子のときはせいぜい2組。子どもが減ってるって実感しました」と当時を振り返ります。

「でもね、長女が小学生のときと、今年入学した子どもの数はだいたい同じなんで

す。市外に出ていた長男も、孫を連れて大和に戻ってきてるんですよ。若者が戻ってくる一つの条件は、子育ての環境が整っていることだと思います」と中江さん。

大和地区には「子どもを地域で育てよう」という思いのもと、「たんぼクラブ」という育児サークルが長く活動を続けています。そのサークルを卒業したお母さんたちが、今度は育児期の母親の相談を受けたりと、子育てしやすい環境が地域の皆さんの頑張りで整っているようです。

シニアの皆さんが頑張っている間に、いろいろな活動をうまくPRしていくことも大切でしょうし、子育てのしやすい環境づくりを継続していくことも大切でしょう。

そうすることで、若い年代の人たちが自分たちの生活の場として、川西を選択してくれることが期待されます。





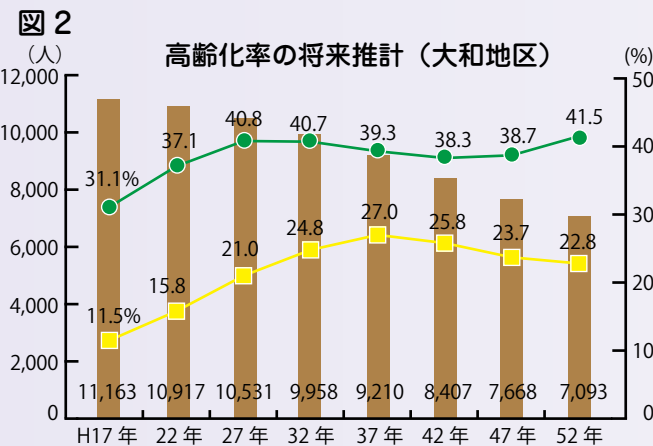
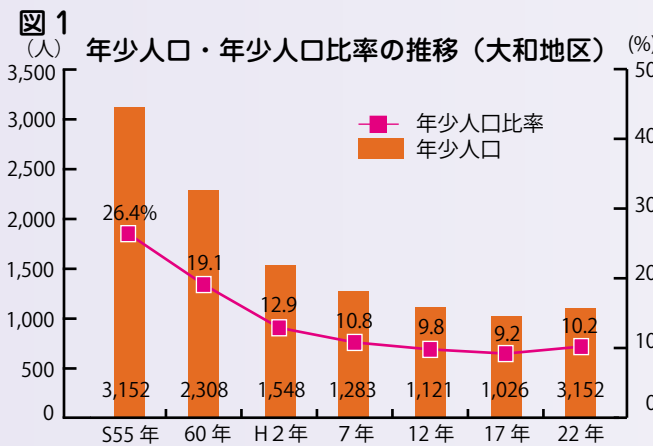
この子たちがずっと住み続けたいと望むまちづくりを  
(写真はイメージです)

今後のふるさと団地再生への道筋を検討するため、昨年、大和地区を対象とした実態調査を行いました。  
調査の中で、まず、年少人口（0～14歳）とその比率の推移を見てみると、昭和55年に3,152人、比率26.4%だった年少人口が、平成17年までは下がり続けていましたが、22年に若干の回復を示しました（図1）。また、地区内の空き家の率は2.5%と、極端に目立つほどのことはありません。このため地区内に住んでいる人にとっては「子どもも増えているし、空き家も言うほどでは…」と、それほど危機感がわかないのが実態ではないでしょうか。

え、これからそんなに人がいなくなるの？

## 実感がないですね だから今から手を打たないと

### 将来予測では人口減少と75歳以上高齢者の増



一方、高齢化率の将来推計を見てみると、平成37年度までは人口が減少するのに65歳以上の高齢化率は上昇していき、地域内の高齢者の割合が多くなると予測されています。その後は人口の減少に伴い高齢者も減少するものの、75歳以上の高齢者が増えることと予測されています（図2）。  
このため、活気のある川西を継続させていくためには、将来の人口構成において若者を増やし、相対的に高齢化率を下げる必要があるとなります。  
アンケート調査では、再生に向けた川西の強みとして「良好な戸建て住宅」「良好な教育環境」「豊かな自然環境、高水準の都市基盤」「優れた防犯・防災性」などが挙げられています。また、川西には交通アクセスの豊富さもありません。  
豊かな自然、治安の良さ、交通アクセスの良さ、地域住民のまちづくりに対する意識の高さは、他のまちに比べて、大きな魅力となります。

若者にこの魅力をうまく伝えることに加え、次ページに掲載するような施策を継続して実施していくことで、ふるさと団地を再生していくことができると考えています。

## 住民、地域、事業者などとの連携で 若者を呼び込んで

市では、昨年、池田泉州銀行との協定を締結し、公共事業に対するさまざまな場面で連携することとしています。ふるさと団地の再生についても連携方法を協議してきました。その一つとして、住み替えや

フォームに関するローンの開発、住み替え相談会の開催などを担ってもらいます。また、(社)移住・住みかえ支援機構のマイホーム借り上げ制度などを活用した団地内への若者世帯の流入を促進する仕組みづく

りを検討しています。このような事業者との連携に加え、さらに重要になってくるのが住民の皆さんや地域との連携です。今後、より具体的な施策を展開し、それぞれが役割を担うことで、川西に若者が戻り、活気あふれるまちが取り戻せるでしょう。



政策課長 飯田 勤

「おたがいさま」と「おかげさま」

昨年、総合計画策定のため、地域の皆さんと話をさせていただきました。その中で人口減少社会のもとで今後10年間のまちのあるべき姿を支えるものとして、多くの意見を頂いたのが「おたがいさま」と「おかげさま」でした。  
ふるさと団地再生も根本は同じです。市民、事業者、地域活動団体、行政などのまちの担い手が「おたがいさま」の共助の精神と「おかげさま」の感謝の気持ちを持ちながら、まちづくりを進めて行く必要があるのではないのでしょうか。  
行政としても手を携えながらみんなが「ウイン・ウイン」になる持続的な取り組みを模索していきます。皆さんも一緒に考えて活気あるふるさと川西をつくっていきましょう。

### 住み替えやすく

高齢となった親の近くに若年世代が住み、孫の面倒を見てもらいながら、親の生活も見て、お互いに助け合い、安全・安心に暮らせるという、親世帯との近居を促進します。

このライフスタイルを推進するために、金融機関や住宅関連事業者と連携し、住宅ローンの開発や住み替え相談会の開催、住み替え先となる高齢者向け住宅の整備などを進めていきます。

### 起業を支援

自宅や空き地、空き家、空き店舗を活用したコミュニティビジネスの立ち上げなど、生活サービスの向上を進めていくことを考えています。

当面は、起業やサービス提供のための人材発掘や育成、ノウハウの提供、拠点の整備、初動期の資金援助などの支援策を検討していきます。

### 新たな交通サービス導入に向けた検討

団地内における新たな住宅地内交通サービス導入の可能性について検討していきます。

また、公共交通機関の利用促進の取り組みを進めます。

### 既存の地域活動をもっとPR

既存の地域活動や行事のレビューを行い、若年層が参加しやすい環境づくりや活動団体間の連携や交流機会を拡大させるなど、活動を続けていけるように改善方策を検討します。

また、そういった地域活動や暮らしを紹介するパンフレットなどを作成して、地域住民やこれから住もうとする若年層にアピールすることを進めていきます。